

## 会議議事録

事業名	令和7年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (4) 職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進①社会的評価の一層の向上のための共通基盤整備の推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第4回事業推進委員会
開催日時	令和7年11月25日(水) 10:00~12:00
場所	オンライン
出席者	委員：五十部 昌克、稲永 由紀、松本 晴輝、氏部 正、 沖 直彦、伊藤 宏一郎、山根 大助、鈴木 弘明、 秋本 泰行 <u>計9名</u> 請負業者：飯塚 正成 <u>計1名</u> オブザーバール：岡村 慎一 <u>計1名</u> <u>合計11名</u>
議題等	<p>1. 内部質保証人材育成講座 実施報告</p> <p>本講座は、専修学校における内部質保証体制の強化と、評価・改善サイクルを担う人材の育成を目的として実施しているものである。本年度も福岡会場および東京会場の2拠点で開催し、以下の通りの参加状況となった。</p> <p>福岡会場では、参加予定者21名に対して19名が出席し、当日欠席は2名であった。</p> <p>東京会場では、参加予定者24名のうち21名が参加し、3名が欠席した。</p> <p>全体として39名中37名からアンケートの有効回答が得られ、受講者の声を反映した分析を行うことが可能となった。</p> <p>(1) アンケート結果の概要と分析</p> <p>アンケートでは、全ての主要項目において9割以上が「十分理解できた」「概ね理解できた」と評価しており、講座内容の妥当性および進行方法の適切さが示された。特に、演習形式で実施した部分については「実務を想像しやすい」「自校に持ち帰って活かせる」といった肯定的な意見が多く寄せられた。</p> <p>一方、「評価基準紹介」の項目に関しては、他の項目に比べてわずかに理解度が低く、評価基準の構造的な理解や、具体的な判定のプロセスが難し</p>

いという声が見られた。これは、学校種・職務経験の違いによって受講者の前提知識にばらつきがあったことが影響していると考えられる。

## (2) 受講者からの主な改善要望

受講者の自由記述から、以下のような改善点が明らかとなった。

### ○事前課題の提示方法の明確化

自己点検評価表の作成指示が抽象的であり、「具体例が欲しい」「事前に作業イメージを共有してほしい」との要望があった。

### ○オンデマンド教材視聴期間の調整

2週間の視聴期間では、授業負担や定期試験準備と重なる学校も多く、「視聴に十分な時間が確保できなかった」との指摘が複数見られた。

### ○印刷用テキスト案内の改善

資料の所在や印刷方法の案内が分かりづらいとの意見があり、受講者によって準備の状況に差が生じた。

### ○午後の時間配分の見直し

「演習が駆け足だった」「議論時間がもう少し欲しい」との要望が多く、演習に重点を置いた時間割の再検討が求められた。

## 2. ファシリテーターからの所見

講座の質を高めるため、会場を担当した各ファシリテーターから詳細な所見が共有された。

### (1) 福岡会場(秋本委員)

秋本委員からは、特に演習部分における改善点が複数挙げられた。

- ・模範解答を事前にファシリテーター間で共有することで、指導の統一性を高めたい。
- ・事前打ち合わせ資料や進行表について、より早い段階での準備が必要である。
- ・演習課題が一部の受講者には難しく、難易度調整を行うことで全体の理解促進につながる。

### (2) 東京会場(山根委員)

山根委員からは、エビデンス例の提示が受講者の理解を深めるうえで非常に効果的であったとの報告があった。また、外部評価の視点を持つためには、審査プロセスのイメージが掴める補助資料の整備が有効であるとの提案もあった。

### (3) 両会場共通の所見(沖委員)

沖先生からは、受講者の属性の幅広さについて言及があり、「内部質保証体制の構築に関わる職員」「外部審査の対応に携わる職員」らが一緒に受

講することで、前提知識の違いが理解の差につながっていたと指摘された。文科省のガイドライン等の事前読み込みが不十分な参加者が一定数見られた点についても、今後のフォローが必要である。

### 3. 運営面の振り返りと改善点

運営面については、以下の通り複数の改善点が確認された。

- ・各テーブルにファシリテーターを配置した点は受講者から高評価であり、今後も継続したい。
- ・一方で、サポートスタッフが不足しており、受付対応や資料配布の効率化のため 1 名追加配置が望ましい。
- ・会場の机幅が狭く、資料を広げにくいとの指摘が多かった。次年度の会場選定に際して考慮すべき点である。
- ・資料持参に関する案内文が分かりづらく、忘れ物が散見されたため、より明確かつ事前に繰り返し周知する必要がある。

### 4. 担当講師養成講座(開催予定)

担当講師の育成を目的とした講座について、以下の報告がなされた。

開催日:令和 6 年 12 月 16 日(月)

会場:ビジョンセンター西新宿 3 階 303

申込状況(11 月 20 日現在):10 名(定員 20 名)

当日は、講師:八木氏、運営担当:五十部委員、鈴木委員、事務局飯塚の体制で実施予定である。

さらに参加者を増やすため、過去 6 年間の TCE 財団講座受講者へ案内を行うほか、委員校へ追加募集の協力を依頼した。締切は 12 月 5 日 とし、さらなる募集強化が図られる。

### 5. ガイドラインセミナー実施報告

#### (1) 自己点検評価ガイドラインセミナー

東京(11 月 10 日)、福岡(11 月 8 日)にて実施された。

改善要望として、以下の指摘があった。

- ・内部質保証 1~6 項目の説明強化
- ・成果指標(KPI)の具体例の提示
- ・「45 分=1 単位」の運用実例を示してほしい
- ・非常勤講師への研修対応方法の明確化

#### (2) 学校関係者評価委員会ガイドラインセミナー

参加校のうち 65%が年 1 回開催であることが判明したが、  
本来は 年 2 回開催が望ましいとされており、改善の必要性が示された。

改善要望としては、

統一フォーマットの提供、自己点検評価結果との並列表示、施設見学を  
動画で代替する方法など、実務負担を軽減しつつ質を確保する工夫が求  
められた。

## 6. 最終成果物の構成案

本事業の集大成として取りまとめる成果物について、次の構成案が提示さ  
れた。

### ○検証講座実施報告書(100～120 ページ)

- ・5 つの取り組み(自己点検評価、学校関係者評価、中期計画策定、内  
部質保証人材育成、同担当講師養成講座)の総括
- ・各講座のアンケート分析

### ○ガイドライン(3 分冊)

- ・中期事業計画策定ガイドライン(60 ページ程度)
- ・自己点検評価ガイドライン(60 ページ程度)
- ・学校関係者評価委員会運営ガイドライン(40 ページ程度)

○内部質保証人材の必要性や育成講座内容を紹介したパンフレットの作  
成については、再度検討。(A4 版見開きカラー程度)

### ○動画コンテンツの作成

動画コンテンツについては、以下を成果物とし、内容的に再度精査する。

- ・自己点検評価解説(1 時間)
- ・評価委員会運営解説(1 時間)
- ・中期事業計画解説(1 時間)
- ・人材育成講座・事前学習動画(約 6 時間)

### ○配布方針

- ・印刷物に関しては、職業実践専門課程設置校約 1,200 校へ配布
- ・動画等は令和 7 年度末まで全専研 HP や LMS を経由して公開

## 7. 今後の会議予定

第 5 回事業推進委員会

(様式)

	<p>令和8年1月13日(火)14:00~17:00(オンライン) 議題:最終成果物一次原稿の確認・修正</p> <p>第6回事業推進委員会 令和8年2月17日(火)15:00~17:00(東京開催) 議題:最終成果物の最終確認</p>
配布資料	

以